

は し が き

この研究集録は、当教育センター科学教育部所員の、一年間にわたる研究成果をまとめたものであります。内容は、主に中学校、高等学校の論文からなり、18編で構成されています。

さて、この一年間をふり返ってみますと、世界的にも、また、国内的にも変化の激しい年であり、教育界におきましても、さまざまな動きが見られました。特に、最近、「児童・生徒の実態に即し、ひとりひとりの能力の育成をめざす」ことの重要性が強調されてきております。すなわち、教材過多・網羅主義の画一的指導から、基本的事項の指導をとおして「人間形成における基礎的能力の伸長をはかる」ことが重要であります。その改善策のひとつとして、多岐にわたる教材の思いきった精選、指導内容の重点化などが強く叫ばれ、さらに、学習指導要領の再検討が問題とされてまいりました。しかし、このような教育の改善に対処するには、なんと言っても、直接、児童・生徒の指導にあたられる教職員の資質の向上が必須の条件であります。それだけに、教職員の研修を主な業務とする教育センターに寄せられる関係方面の期待は非常に大きく、その責務はますます重くなってきております。

このような情勢に対応して、教育センターでは数年前から所員の総力をあげて教育の現代化をめざした研究に取り組み、それを基礎とした各種の講習と研修を実施してまいりました。この研究集録におさめた論文も、理科教育の現代化に対応した指導上の問題点や素材を検討したもので、その考えかたや資料が学校での理科の指導に役立つことを願っております。

ただ、なにぶん、講習やその準備など、多忙のなかでの研究であるため、引き続き研究を要する内容のものもありますし、研究の進め方や結論の導き方に不じゅう分さがあるかもしれません。お気づきの点につきましては、率直なご指摘とご指導をお願い致します。

最後に、これらの研究にあたり、種々ご助言を賜わり便宜を与えられました各位に厚くお礼申し上げます。

昭和50年3月

新潟県立教育センター所長 竹内豊治